

科目	内部障害理学療法学	担当	林 久恵	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

内部障害理学療法学では、基本的な内部障害系疾患の病態、理学療法評価について学修する。また重複障害のとらえ方や治療目標の設定に必要な臨床思考過程について理解し、疾患の重症度・加齢に伴う変化・リスク管理を考慮した実践的な理学療法プログラムを立案できることを到達目標とする。

【履修注意】

ノートおよびレジュメを綴じるファイルを持参してください。

【評価方法】

筆記試験、小テスト、提出課題にて評価する。グループワーク、出席および発表準備状況も考慮する。

【試験について】

筆記試験 再試験対象者の条件： 定期試験の点数が60点未満かつ40点以上の者

【予習・復習】

内部障害の病態を理解するためには、解剖学・生理学の知識が不可欠です。各疾患に関連する臓器の正常な機能について前日までに自習し(45分以上)、受講してください。

【教科書】

書籍名：内部障害理学療法学テキスト改訂第3版 著者：山崎裕司、川俣幹雄、丸岡弘(編集) 出版社：南江堂

【参考書】

書籍名：心臓病の病態生理—ハーバード大学テキスト 著者：川名正敏(訳・著)[原著者Leonard S. Lilly]

出版社：株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル

書籍名：内部障害理学療法学 循環・代謝 編集者：石川朗、木村雅彦 出版社：中山書店

書籍名：リハビリテーションの効果を最大限に引き出すコツ 編集者：山崎裕司、山本淳一 出版社：三輪書店

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	内部障害理学療法学総論	内部障害の病態、臓器間の病態連関、血液検査結果の見方
2	循環器系の障害と運動制限・心電図	内部障害と運動制限、心電図の診かた、緊急時の対応
3	循環器疾患の理解・心機能のみかた	循環器疾患の病態、心ポンプ機能、心筋虚血・不整脈と心電図
4	運動耐容能、心疾患とADL・QOL	運動耐容能の評価方法、心疾患患者のADL・QOL評価
5	虚血性心疾患/心不全の理学療法	虚血性心疾患、心不全の病態と理学療法
6	代謝・栄養障害/患者教育と行動変容	代謝障害・栄養障害の評価法、患者教育と応用行動分析
7	血管疾患に対する理学療法	大血管および四肢末梢脈管疾患の基本治療と理学療法
8	運動と呼吸(持久力・息切れ)/代謝	換気・ガス交換とその障害、糖・脂質代謝とその障害
9	糖尿病の理学療法	糖尿病の病態、軽症例に対する運動療法/重症例の理学療法
10	ガンの理学療法	ガンの病態、評価の実際、緩和ケアと理学療法
11	開胸・開腹術後の理学療法	特別講義 (喀痰吸引の実施方法 含む)
12	腎不全患者に対する理学療法	特別講義
13	症例検討1	内部障害併存例の評価と問題点の検出、理学療法プログラムの立案、リスク管理
14	症例検討2	内部障害併存例の評価と問題点の検出、理学療法プログラムの立案、リスク管理
15	内部障害理学療法 まとめ	択一式問題の実施、要点の確認、15コマの復習
16	期末試験	